

世界の列車トイレ
—イタリアローカル線—

NPO 法人 21世紀水倶楽部
清水 洽

この度、イタリアの小さな旅としてトスカーナ州のリヴィエラ海岸に出かけました。イタリアは日本と同じように南北に長く季節の変化があり、北はフランス、スイス、ドイツに近く機械、化学等の工業が発達し比較的豊かです。南は地中海性気候で温暖でありオリーブ、ぶどう、コメ、小麦等の農業が盛んでその他観光産業が盛んです。今回はジェノヴァからピザに行く、リグリア海沿いの東リヴィエラを通る路線で、観光地でリゾート地が多く比較的豊かな都市です。



写真1 サン・ジョルジョ城から見たリゾート地、ポルトフィーノの港 2014.3.8



写真2 リヴィエラ海岸を走る列車に乗車した最初の駅ラパロ駅 2014.3.8



写真3 ラパロ駅に入線するインテルシティ IC665 列車 2階建て客車 DP 型 2014.3.8



写真4 2階建て客車 DP 型車両の水洗トイレとその手洗。洗面所の壁には落書きがされています。もちろん汚物は垂れ流しです。 2014.3.8



写真5 モンテロッソ駅を通過する特急フレッチャビアンカ FB9777。車両は元のユーロスターE414 (ES city) の電気機関車 E404.1 を転用している 2014.3.8



写真6 我々が下車し海岸を歩いたモンテロッソ駅と駅からすぐそばの海岸の風景。上部に鉄道路線のトンネルが見える 2014.3.8



写真7 2011年の洪水で大被害があったベランティアの町とリオマンギオレ駅を発車したジェノヴァ行き列車 2014.3.8



写真8 我々がリオマンガオレ駅からラ・スペツツィア駅まで乗車した Le642 車両の垂れ流しの水洗トイレ 2014.3.8



写真9 ラ・スペツツィア駅で我々が乗車したレジョナーレ普通列車 2014.3.8



写真10 ヴィアレージオ駅の E464 が牽引する新たに開発された2階建て車両。トイレの汚物貯留設備は確認できませんが 汚物の垂れ流しはないと思います。2014.3.9



写真1 1 ヴィアレージオ駅前に作られたカーニバルの案内板

2014.3.9



写真1 2 フィレンツェ駅での VC/VE 型中・近距離区間の車両と汚物垂れ流し管

2013.3.13



写真1 3 フィレンツェ駅構内で私が乗車する ETR500 赤い矢(フレッチャ・ロッサ)、手前2両、奥に見えるのが、新型動力分散方式の特急車イタロ

2014.3.13



写真14 ETR500(フレッチャ・ロッサ)赤い矢の真空式トイレと手洗い。優等列車だけあり比較的清潔でした。 2014.3.13



写真15 ミラノ駅手前の車両基地に出番を待つフレッチャ・ビアンカ(白い矢)。この列車トイレの汚物は垂れ流しです。 2014.3.13

最後は、亀田泰武様からの情報です。ローマから東へチボリ駅までのローカル線の列車に乗車した時の写真です。



写真16 チボリ駅舎と E464 型直流電気機関がけん引するローカル列車 2013.6.28



写真17 チボリ駅に停車中のPR型車両とその汚物流し管、またこの車両を牽引する軽
量旅客列車専用のE464電気機関車 亀田泰武氏提供 2013.6.28

参考文献

- 1) 地球の歩き方編集室「イタリア鉄道の旅」(株)ダイヤモンド・ビッグ社 2010.2.26
- 2) 社団法人 海外鉄道技術協会「最新世界の鉄道」 2006.7.